



業績目録(中村春和)

著者	東北大学史料館
雑誌名	東北大学定年退職教員業績目録
号	2012-40
発行年	2013-03
URL	http://hdl.handle.net/10097/56618

東北大学定年退職教員業績目録第 2012－40 号

仲 村 春 和 教授 業績目録

平成25年3月
東北大学史料館

履歴書

氏名：仲村春和 (Harukazu Nakamura)

最終部局名・職名：東北大学大学院生命科学研究科・教授（加齢医学研究所兼任）
仙台市青葉区星陵町4-1

出身学校：京都大学理学部昭和46年12月卒業 生物系

取得学位：医学博士（広島大学）

略歴 昭和47年1月京都府立医科大学助手（解剖学）

52年4月広島大学医学部助手（解剖学）

54年4月広島大学医学部講師

58年1月広島大学医学部助教授

63年9月京都府立医科大学教授（生物学）

平成5年3月東北大学加齢医学研究所教授（分子神経研究分野）

平成13年4月東北大学大学院生命科学研究科教授（脳構築）現在に至る。

留学：1979年8月－1980年9月フランス政府給費留学生

国立発生学研究所に留学（Le Douarin 教授の下でニトリウズラキメラ作成による神経堤細胞の移動・分化の研究）

1987年9月－1988年6月文部省長期在外研究員

セントルイスのワシントン大学に留学（Dennis O'Leary 教授と網膜視蓋投射の研究）

専門分野：神経発生学

研究課題：脳の形作りのメカニズム

所属学会：日本発生生物学会、日本神経科学学会、日本解剖学会、日仏生物学会、Society for Neuroscience（米国）、International Society of Developmental Biologists

学会活動

学会役員

平成19年から：日本発生生物学会機関誌 Development, Growth & Differentiation 編集長、

日本神経科学学会機関誌 Neuroscience Research 編集委員

Developmental Dynamics 編集委員

日本解剖学会評議員、

平成25年より：日仏生物学会長、

平成14-15年：日本発生生物学会幹事長

平成9-12、15-18、21-22年：日本発生生物学会運営委員

大会関係

平成3年：日本解剖学会総会副会頭

平成17年：日本発生生物学会 第38回大会長

平成24年7th International Chick Meeting 会長

平成22-23年：日本神経科学学会第34回日本神経科学学会大会実行委員、Travel Award 選考委員長

賞

沖縄研究奨励賞 平10.1.20、中枢神経系のパターン形成・回路形成

競争的資金獲得実績

科学研究費

基盤研究C 網膜視蓋投射・視蓋層形成機構の解析 2010～2012 年度

基盤研究B Fgf8 シグナルによる小脳分化の制御 2007 年度～2008 年度

特定領域研究 中脳視蓋の層形成と回路形成機構の解析 2005 年度～2009 年度
統合脳、脳の神経回路の機能解明班（代表狩野方伸）計画班員

特定領域研究 峽部オーガナイザー形成のメカニズム 2004 年度

基盤研究A 視蓋・小脳の領域化及び網膜視蓋投射機構のメカニズム 2003-2005 年度

基盤研究B オーガナイズシグナルと視蓋・小脳分化のコンピテンス 2001 年度～2002 年度

特定領域研究 視蓋の誘導・位置特異性決定の分子機構 1998 年度～2003 年度、計画班員

特定領域研究 脳・神経系形成における誘導のメカニズムの解明 領域代表 1998-2004 年度

特定領域研究 黒岩班 脊椎動物のボディープランの分子的基盤-形態形成遺伝子-
計画班員、視蓋発生における遺伝子ネットワークの研究 1997-1998 年度

重点領域研究 網膜視蓋投射形成の分子機構 1995-1997 年度

重点領域研究、藤澤班 形態形成の調節機構-器官の形成と再生を制御する分子機構 計画班員 視蓋吻
尾軸決定の分子機構 1993-1996 年度

重点領域研究 標的組換え 山村班、ニワトリ中枢神経系の形態形成と回路形成遺伝子 1993-1996 年度

一般研究B 視蓋吻尾軸の決定機構：その遺伝子的背景と神経回路形成 1992 年度～1993 年度

重点領域研究 佐武班 神経回路形成の分子機構、公募班員 鳥類視蓋における位置特異的分子発現の決
定 1988-1990 年度

一般研究C 鳥類網膜-視蓋投射系の解析 1987-1988 年度

特定研究 脳の分化, 神経回路形成の可塑性: ニワトリ・ウズラ・キメラ脳による解析 1986-88 年度

奨励研究(A) 移植法による鳥類脳の分化の研究 1985 年度

特定研究 多細胞体制の形成機構：神経冠細胞の分化に及ぼす内的、外的要因の作用機構 1984 年度

奨励研究(A) マウス脊髄体性運動性ニューロン分化の研究 1983 年度

一般研究(C) ヒトおよびマウス肢芽形成の比較発生学的研究 1975 年度

奨励研究(A) ビタミンA過剰による四肢奇形発現機作の器官培養による研究 1973 年度

科技厅

科学技術振興調整費「高次脳機能の分子機構解明に向けた基盤技術の開発に関する研究」
神経回路網の形成及び維持機構の解明に関する研究 1995-97 年

科学技術振興調整費目標達成型脳科学研究推進制度
「機能的神経回路構築の分子基盤」網膜視蓋投射形成の分子機構に関する研究 1998 年度-2001 年度

厚生省筋疾患研究委託費

筋の発生と分化に関する基礎的研究 昭和 57 年度 「体幹部神経堤細胞からの間葉組織の分化」
昭和 58 年度「鳥類胸腺筋様細胞の起源について」

中小企業事業団

中小企業創造基盤技術事業 エレクトロポレーションによる遺伝子導入、遺伝子治療、局所的投薬法の開発
1998 年度-1999 年度

文部省

文部省研究科共同経費（1995-97）胚発生における遺伝子発現調節機構に関する共同研究 （代表）

日本学術振興会

若手研究者海外派遣事業・組織的な若手研究者海外派遣プログラム
生命科学における英国・欧州研究機関との組織的研究協力体制の構築のための若手派遣、主担当者
2010-2012 年度

東北大学脳科学グローバル COE「脳神経科学を社会へ環流する教育研究拠点」拠点メンバー 2007-2011 年度

財団

1989 年ライフサイエンス振興財団

鳥類網膜視蓋投射形成機構：ニワトリウズラーキメラ法による解析

1990 年日本脳神経財団 鳥類網膜視蓋投射形成機構：ニワトリウズラーキメラ法による視蓋吻尾軸の決定
研究

ライフサイエンス振興財団 鳥類網膜視蓋投射形成機構：ニワトリウズラーキメラ法による解析

1991 年 三菱財団自然科学研究助成金 脳の組織構築、神経回路形成とホメオボックス遺伝子

1991 年ライフサイエンス振興財団 鳥類網膜視蓋投射形成機構：ニワトリウズラーキメラ法による解析

1993 年 稲盛財団助成金ニワトリ胚視蓋の吻尾軸決定における遺伝子間相互作用：engrailed と Wnt-1 の相
互作用

1993 年ブレインサイエンス振興財団 鳥類視蓋吻尾軸決定の遺伝子的背景

1994 年 山田科学振興財団 視覚中枢における位置特異性獲得の分子機構

1994 年 内藤記念科学振興財団 ニワトリ胚視蓋吻尾極性決定の分子機構 ニューロンへの決定と分化の分子機構の解明

2001 年 三菱財団「小脳の分化を規定する転写因子の組み合わせ、シグナル、シグナルトランスダクションの研究」

教育活動

担当授業科目

大学院

脳構築学特論 2001-2012

課題研究 A 2001-2012

細胞生物学合同講義 1995-2012

生化学合同講義 1995-97 年度

学部

加齢生物学概論（理学部生物学）1996-2012

細胞生物学（医学部医学科）1997-1999

基礎ゼミ 2005 年度

生命科学 B 2007 年度

現代学問論 2012 年度

他大学非常勤講師

京都大学総合人間学部（1989-1993）、京都教育大学（1991-1993）、千葉大学医学部（1989, 1992）、新潟大学医学部（1996 年度）、大阪大学理学部（1999 年度）、新潟大学理学研究科（2001 年）、東京大学分子細胞生物学研究所（2003 年）、神戸大学医学部（2007 年）、福井大学医学部（2007 年）、京都府立医科大学（2003, 2012 年）

学内活動

学内委員等

2001 年度 生命科学研究科 生命機能科学専攻長

2002 年度 学務審議会委員

2005 年 研究科入試委員会副委員長

2006 年 研究科入試委員会委員長

2003 年度-2005 年度 研究科学務委員会委員

2006-2011 年度 図書館商議会委員、

2006-2012 年度 学術情報整備検討委員会

2007 年学生生活協議会協議員

研究科、研究所のシンポジウム主催

1. 第 13 回加齢研シンポジウム、脳の高次機能の構築 ー発生・可塑性・マッピングー, 1995 年 2 月 24 日（世話人, 仲村春和, 福田寛）
2. 第 14 回加齢研シンポジウム「発生分化のメカニズム」（世話人 仲村春和, 佐竹正延, 宮崎純一）1995 年 6 月 5 日, 仙台

3. 加齢研ミニシンポジウム「神経発生のダイナミズム」(主催 仲村春和) 1998年1月26日 加齢研
4. 加齢研シンポジウム「幹細胞と形態形成」主催(世話人 帯刀益夫, 仲村春和, 佐竹正延), 1999年6月18-19日
5. 第26回加齢研シンポジウム IDAC Summer Workshop on Developmental Biology (世話人仲村春和) 2001年7月14日、加齢研大会議室
6. International Symposium on Morphogenesis and Organ Regeneration (オーガナイザー、仲村春和、田村宏治) Sendai, Japan. January 12, 2007
7. The 1st UCL-Tohoku-University Symposium (Organizer, Harukazu Nakamura, Shin-ichi Ohnuma) London, Great Britain. March 15-15, 2010
8. Second UCL-Tohoku University joint symposium (Organizer, Harukazu Nakamura, Shin-ichi Ohnuma) Sendai, Japan. January 23-23, 2011 東北大学脳科学国際シンポジウム(オーガナイザー) Sendai, Japan. January 21-23, 2011
9. Third UCL-Tohoku University Joint Symposium From Cell/Developmental Biology to Human Diseases (オーガナイザー, Harukazu Nakamura, Shin-ichi Ohnuma) London, Great Britain. October 19, 2011

学外活動

- 1999- 科学研究費委員会専門委員
- 2000, 2006 HFSP Grant 選考委員
- 2001 HFSP 国内連絡委員
- 2001 Limoges 大学博士審査委員
- 2001 および 2007 理研脳科学総合研究センタープレビュー委員会委員
- 2004 NHMRC (National Health and Medical Research Council of Australia) Grant Reviewer
- 2003- Italian Ministry for Education University and Research (MIUR), the Grant Review Committee
- 2005 パリ大学 (Université Pierre et Marie Curie) 博士審査委員
- 2007 The University of Sheffield, External testimony
- 2009 University of Connecticut Health Center, Reviewer
- 2009- 埼玉大学総合研究機構脳科学融合研究センター アドバイザリーボード
- 2012- 日本学術会議特任連携会員
- 2012 イギリス Biotechnology and Biological Sciences Research Council grant reviewer
- 2012 学術会議 基礎生物学委員会・統合生物学委員会 発生生物学分科会 特任連携会員

シンポジウムの主催、世話人

1. 第96回日本解剖学会総会 シンポジウムI「分子-細胞-形態形成-その連続性を求めて」(世話人安田峯生, 仲村春和), 1991年4月1~3日, 京都
2. 日本神経科学学会 第15回大会 シンポジウム「神経標的認識機構」(オーガナイザー 仲村春和, 寺島俊雄) 1991年12月19日, 東京
3. 神経系の発生-自律神経系を中心に 第47回自律神経学会総会シンポジウム世話人 (遠山正弥, 仲村春和), 1994年10月20-21日、豊中
4. 第35回日本先天異常学会学術集会シンポジウム「形態形成の分子レベルにおける解明」(世話人江藤一洋, 仲村春和), 1995年7月27-29日, 東京
5. 神経発生の分子細胞生物学, 世話人 仲村春和, 御小柴克彦 第68回日本生化学会大会, 1995年9月16-18日, 仙台
6. 日本神経科学学会第20回大会シンポジウム「神経回路形成における標的選択の分子メカニズム」(世話人 仲村春和、田中英明) 1997年6月16-18日仙台
7. 第21回日本神経科学学会・第41回日本神経化学会合同大会 ミニシンポジウム「中枢神経系パターン形

- 成のダイナミズム」世話人 東京ビッグサイト、1998 年 9 月 21-23 日
8. 第 72 回生化学会大会シンポジウム「網膜分化から見たパターン形成」世話人、岡本仁、仲村春和、1999 年 10 月 9 日、横浜
 9. 文部省特定領域研究 B 「脳のパターン形成」公開シンポジウム Brain Pattern Formation 25-26 Nov. 1999, Sendai, 主催
 10. Workshop: Emerging genetic technology in developmental biology. organizer, 14th International Congress of Developmental Biology, 8-12, July, 2001, Kyoto.
 11. 第 108 回日本解剖学会総会、全国学術集会、シンポジウム「生体と時間：遺伝子発現のタイミング」世話人岡村均、仲村春和、福岡、2003、4.1—3
 12. シンポジウム「さまざまな動物の器官形成における左右制創出メカニズム」日本発生生物学会第 38 回大会 世話人仲村春和、田村宏治 2005 年、仙台
 13. Symposium Pattern formation in the central nervous system (Organize: Nakamura, H. and O'Leary, D.D.M), 16th International Congress of International Federation of Associations of Anatomists, 22-27, Aug. 2004, Kyoto

学外の社会活動

宮城県高等学校理科研究会仙塩支部生物部会 出前講義（2011 年 9 月 28 日）
 コア SSH 講演会（super science high school、仙台三高）2013 年 2 月 9 日

業績リスト

I. 著書

1. Muscular Dystrophy (eds. S. Ebashi and E. Ozawa), Japan Sci. Soc. Press, Tokyo. (1983) pp283-290. Harukazu Nakamura. Differentiation of trunk neural crest cells into mesenchyme in birds.
4. Molecular Basis of Neuronal Connectivity. (eds. M. Satake, K. Obata, H. Hatanaka, E. Miyamoto and T.Okuyama) Kohko-Do, Niigata, 1992, pp110-112. Harukazu Nakamura, Nobue Itasaki, Hiroyuki Ichijo and Toru Matsuno, Establishment of the rostrocaudal polarity of the avian optic tectum.
- 5.ブレインサイエンス最前線94 （佐藤昌康編）講談社サイエンティフィク 1993, pp161-172. 12.鳥類視蓋吻尾軸決定の遺伝子的背景（仲村春和、板崎伸栄の項担当）.
6. Developmental Mechanisms of Heart Disease. eds. E.B. Clark, R.R. Markwald and A. Takao Futura Publishing Company, Inc., Armonk, NY 1995, pp197-206. Hiroshi Sumida, Harukazu Nakamura and Mineo Yasuda, Interactions between cardiac mesenchymal cells and the extracellular matrix in rat and chick in vitro. pp477-485. Harukazu Nakamura and Nobue Itasaki, Actin bundle and cardiac loop formation in chick embryos の項担当
7. 神経生物学のための胚と固体の遺伝子操作（近藤寿人編）pp179-189. 3. レトロウイルスを用いたニワトリ胚への遺伝子導入, 3.1- b キメラ作製による局所的遺伝子発現の項担当
8. 標準細胞生物学（石川春律、近藤尚武、柴田洋三郎編）医学書院 pp244-248, 第9章 I. 細胞の分化と多様性の項担当, 1999
9. 神経堤由来組織の腫瘍性病変 三輪書店 pp6-17 1 神経堤細胞の発生と分化担当, 1999 生塩之敬, 山浦晶編
10. 脳神経科学 伊藤正男監修、金澤一郎、篠田義一、広川信隆、御子柴克彦、宮下保司編、三輪書店. pp. 203-209. 第3章 7. 中枢神経系の領域特異化の項分担執筆 2003 年
11. 加齢医学 帯刀益夫、佐竹正延編、東北大学出版会 pp164-176 第二部 加齢はどのように進むのかー臓器、個体の老化ー 第VII章 脳はいかにしてかたちづくられるかの項担当
12. Molecular Embryology Methods and Potocols, 2nd ed. Eds. Paul T. Sharp, Ivor Mason. Humana Press, Chapter 27

- Jun-ichi Funahashi, Harukazu Nakamura Electroporation in avian embryos. pp377-382, 2008.
13. Electroporation and Sonoporation in Developmental Biology. Ed Nakamura, H. 2009 Springer Japan, Tokyo.
 Chapter 1 'Short history of electroporation for the study of developmental biology' Harukazu Nakamura, pp3-7
 Chapter 2 'In ovo electroporation as a useful tool to pursue molecular mechanisms of neural development in chick embryos. Noritaka Odani, Xubin Hou, Harukazu Nakamura, pp9-16
 Chapter 10 'Retinal fiber tracing by in ovo electroporation' Hidekiyo Harada, Harukazu Nakamura, pp97-104.
 Chapter 12 'Clonal and widespread gene transfer by proviral electroporation for analysis of brain laminar formation' Sayaka Sugiyama, Harukazu Nakamura, pp117-127.
14. 実験医学別冊 (2012) 医学書院 仲嶋一範, 北村義浩, 武内恒成／編 目的別で選べる遺伝子導入プロトコール. Pp99-111 ニワトリ胚への遺伝子強制発現およびノックダウン

翻訳

1. ラーセン『最新人体発生学』(第2版) 相川栄三、山下和雄、三木明德、大谷浩監訳 西村書店 1999
2. ニューロンの生理学 (Physiologie du neurone) D. Tritsch, D. Chesnoy-Marchais, A. Feltz 編、加藤総夫、小島比呂志、持田澄子訳者代表、京都大学出版会、2009 第20, 21章翻訳
3. キメラ・クローン・遺伝子 ―生命の発生・進化をめぐる研究の歴史― 仲村春和、勝部憲一監訳、西村書店、2012年 (Nicole Le Douarin 著 Des Chimères, des clones et des genes, Édition Odile Jacob, Paris, 2000)

II. 総説

1. Harukazu Nakamura (1982). Mesenchymal derivatives from the neural crest. Arch. Histol. Jpn., 45, 127-138.
2. 仲村春和 (1984). 神経堤細胞の発生, 移動と分化. 脳神経 36, 27-35.
3. Harukazu Nakamura and Christane Ayer-Le Lièvre (1986). Neural crest and thymic myoid cells. in 'Current Topics in Developmental Biology. Vol. 20.' (eds. T. S. Okada and H. Kondoh), pp111-115, Academic Press, New York.
4. 仲村春和(1986). 細胞の運動と移動. メビオ, 3(6), 85-88.
5. 仲村春和(1987). 大脳辺縁系の系統発生と個体発生. Clinical Neuroscience, 5, 142-143.
6. 仲村春和 (1987) 脳の分化の柔軟性とがんこさについて. 細胞, 19, 8-11.
7. 仲村春和 (1987) ニワトリ・ウズラ・キメラ法を用いた発生学の研究. 実験医学, 5, 767-769.
8. 仲村春和 (1987). 脳の分化、神経回路形成の可塑性: ニワトリ・ウズラ・キメラ脳による解析. 病態生理 6, 885-886.
9. 仲村春和 (1988) 神経堤細胞と心臓の形態形成. Studia Fumana et Naturalia 22, 97-102.
10. 仲村春和 (1989). 神経系発生における分化の可塑性. 京都府医大雑誌, 98(2), 129-137.
11. 隅田寛, 結城常譜, 仲村春和 (1990) 心臓の形態形成と細胞, 細胞外基質. Studia Fumana et Naturalia 23, 115-123.
13. 仲村春和, 寺島俊雄 (1990) カルボシアン蛍光色素 Di I, Di O による神経組織のラベル法. 実験医学 別冊「神経生化学マニュアル」御子柴克彦, 畠中寛 編 pp236-241.
14. Harukazu Nakamura, Hiroyuki Ichijo and Takashi Kobayashi (1990) Differentiation of avian retinotectal projection. Neurosci. Res., suppl., 13: s18-s23. (Mechanisms of Neural Development and Reorganization. Ebashi, S. and Obata, K. eds., Elsevier, Shannon)
15. 仲村春和 (1990) 軸索成長の誘導因子. 医学のあゆみ 152, 433
16. 松野享, 一條裕之, 板崎伸栄, 仲村春和 (1990) 鳥類視蓋の部域特異性はどのようにきまるか. Studia Fumana et Naturalia 24, 95-100.
17. Harukazu Nakamura (1991) Plasticity in development of the central nervous system. Zool. Sci., 8, 1-9.
18. 仲村春和 (1991) 異種間移植脳の発生分化. 生体の科学, 42, 86-91.
19. 仲村春和 (1991) ニワトリ網膜視蓋投射の形成: 神経回路形成における可塑性. OMR, 19, 14-19.
20. 板崎伸栄, 仲村春和(1991) 心臓の発生と体の左右非対称性. Studia Humana et Naturaria, 25, 27-34.
21. 板崎伸栄, 仲村春和(1993)胚のマニピュレーションによる神経回路形成へのアプローチ. 実験医学, 11,

1252-1258.

22. 仲村春和(1993)神経回路の発生と中枢神経系前後軸決定の遺伝子機構 蛋白質核酸酵素, 38, 2322-2332.
23. Harukazu Nakamura, Nobue Itasaki and Toru Matsuno (1994) Rostrocaudal polarity formation of chick optic tectum. *Int. J. Dev. Biol.* 38, 281-286
24. Toru Matsuno and Harukazu Nakamura (1994) Plasticity in mesencephalic and retinal polarity formation in avian embryos. *Neurosci. Res.*, 19, 1-8
25. 仲村春和：ニワトリ中枢神経系原基の実験操作、実験医学 12, 254-259, 1994
26. 仲村春和：ニワトリとウズラ：神経系の形態形成、Brain Medical, 6, 151-156, 1994.
27. 仲村春和：神経回路形成因子 —視蓋吻尾極性決定因子の解析—, 蛋白質核酸酵素, 40, 715-723, 1995
28. Harukazu Nakamura, Nobue Itasaki and Jun-ichi Funahashi (1995) Molecular mechanisms of neural circuit formation - A review. *Exp. Neurobiol.*, 4, 1-5.
29. 舟橋淳一、仲村春和：網膜—視蓋投射の分子機構—中脳（視蓋）の極性の形成に関わる遺伝子たち、実験医学 14, 544-550, 1996
30. 仲村春和：神経細胞のアイデンティティの獲得と標的選択、現代化学増刊 32, 神経細胞の生と死 44-51, 1997
31. 仲村春和 (1997)：中枢神経系の位置特異性の獲得と神経回路形成、加齢研雑誌 48, 125-133.
32. 仲村春和 (1998)：脳発生における誘導・アイデンティティの形成、生化学 70, 296-299
33. 岡藤辰也、仲村春和 (1999)：視蓋の形成、吻尾極性決定の分子機構、解剖学雑誌 74, 327-334
34. 仲村春和 (1999) 脳の領域化のメカニズム, *Molecular Medicine*, 36. 12, 1392-1402, 1999
35. 杉山清佳、仲村春和 (1999) 脳の形態形成 *Clinical Neuroscience*, 17, 254-257.
36. 荒木功人、仲村春和 (2000)：どこからどこまでが中脳になるのか？表現型の経時的な追跡と変異タンパク質の強制発現を併用した遺伝子カスケードの研究例、細胞工学 19, 146-152
37. 仲村春和 (2000) 視蓋の形成および網膜視蓋投射形成機構, 蛋白質核酸酵素, 45, 316-322.
38. 佐藤達也、仲村春和 (2000) 中脳胎の発生を制御する遺伝子群 μ 視蓋分化の条件 μ 実験医学 18, 1239-1245
39. Yuji Watanabe, Tatsuya Katahira, Tatsuya Sato and Harukazu Nakamura (2000) Molecular mechanisms for defining tectum territory in chick embryogenesis. *Acta Histochem. Cytochem.* 33, 1-4.
40. Yasugi, S., Nakamura, H. (2000) Gene transfer into chicken embryos as an effective system of analysis in developmental biology. *Develop. Growth Differ.* 42, 195-197.
41. Harukazu Nakamura, Yuji Watanabe and Jun-ichi Funahashi (2000) Misexpression of the genes in the brain vesicles by in ovo electroporation. *Dev. Growth Differ.* 42, 199-201.
42. 仲村春和 (2000) 脳発生における誘導・アイデンティティの形成, 化学工業 51, 345-354.
43. 渡邊裕二、仲村春和 (2000) 脳の形態形成遺伝子, 現代医療 32, 1949-1956.
44. 岸本光司、国分正一、渡邊裕二、舟橋淳一、仲村春和 (2000) エレクトロポレーションによる遺伝子導入 整・災外 43, 1523-1527.
45. Harukazu Nakamura (2001) Regionalisation of the optic tectum: Combination of the gene expression that defines the tectum. *Trends Neurosci.* 24, 32-39.
46. Harukazu Nakamura, Jun-ichi Funahashi (2001) Introduction of DNA into chick embryos by in ovo electroporation. *Methods*, 24, 43-48, G. Eichele, ed., Academic Press
47. Harukazu Nakamura (2001) Regionalisation and polarity formation of the optic tectum. *Prog. Neurobiol.*, 65 473-488
48. 仲村春和 (2001) 特集に寄せて、生体の科学 52 (3) 特集「脳の発達に関与する分子機構」 pp170-171
49. 杉山清佳、仲村春和 (2001) 中脳領域の特異化 生体の科学, 52, 177-181.
50. 佐藤達也、仲村春和 (2002) 視蓋/小脳の分化と FGF シグナル、実験医学増刊「ここまでわかった形づくりのシグナル」竹縄忠臣、帯刀益夫編、213-220
51. 実験医学増刊「脳・神経研究のフロンティア」仲村春和、村上富士夫編 (2002)
仲村春和 中枢神経系の領域はどのようにして形成されるか、12-20、
松永英治、仲村春和 視蓋領域形成における Pax6 と Pax3/7 の役割、34-40
52. 松永英治、仲村春和 (2002) 視蓋領域形成の分子機構 東北医学雑誌 114, 216-220.
53. Nakamura, H., Sugiyama, S. (2004) Polarity and laminar formation of the optic tectum in relation to retinal projection. *J.*

Neurobiol., 59, 48-56.

54. Nakamura, H., Watanabe, Y. (2005) Isthmus organizer and regionalization of the mesencephalon and metencephalon. *Int. J. Dev. Biol.*, 49, 231-235.
55. Harukazu Nakamura, Tatsuya Katahira, Yuji Watanabe & Jun-ichi Funahashi (2004) Gain- and loss-of-function in chick embryos by electroporation. *Mech Develop.* 121, 1137-1143
56. 片平立矢, 仲村春和 (2004) エレクトロポレーション法によるニワトリ胚へのベクター組み込み型 siRNA 導入法、*実験医学* 22, 2189-2194
57. Sato T, Joyner AL, Nakamura H. (2004) How does Fgf signaling from the isthmus organizer induce midbrain and cerebellum development? *Dev Growth Differ.* 2004 Dec; 46, 487-94.
58. 仲村春和 (2005) 峡部オーガナイザーによる小脳分化の制御 *実験医学* 23, 127-132.
59. Nakamura, H., Katahira, T., Matsunaga, E., Sato, T. (2005) Isthmus organizer for midbrain and hindbrain development. *Brain Res. Rev.* 49, 120-126.
60. 鈴木—平野明日香, 仲村春和 (2005) 小脳分化を誘導する FGF シグナルの調節機構 *細胞工学* 24, (10) 1046-1050
61. 仲村春和 (2005) 小脳の発生 *Clinical Neuroscience*, 23, 1353-1355.
62. 仲村春和 (2007) 細胞間相互作用を担うシグナル系 *化学* 62 (9), 23-27
63. Nakamura, H., Sato, T. and Suzuki-Hirano, A. (2008) Isthmus organizer for mesencephalon and metencephalon. *Dev. Growth Differ.*, 50, S113-S118
64. 仲村春和, 杉山清佳, 佐藤達也, 鈴木—平野明日香 (2008) 峡部オーガナイザーと小脳分化制御・視蓋極性形成および網膜視蓋投射形成 *蛋白質核酸酵素* 53, (4) 373-378
65. Noritaka Odani and Harukazu Nakamura (2008) Electroporation as an efficient method of gene transfer. *Dev Growth Differ.* 50 (6) 443-448.
66. 仲村春和 (2012) 脊椎動物の脳はいかにしてかたちづくられるか *日仏生物学会誌* 52, 4-15.
67. Harukazu Nakamura and Junichi Funahashi (2013) Electroporation: Past, present and future. *Dev. Growth Differ.* 55, 15-19.

III. 原著

1. Hitoshi Yamawaki, Harukazu Nakamura, Hajime Fujisawa, and Mineo Yasuda (1974). Effects of maternal hypervitaminosis A upon developing mouse limb buds. I. Light microscopic investigation. *Cong. Anom.*, 14, 13-22.
2. Harukazu Nakamura, Hitoshi Yamawaki, Hajime Fujisawa, and Mineo Yasuda (1974). Effects of maternal hypervitaminosis A upon developing mouse limb buds. II. Electron microscopic investigation. *Cong. Anom.*, 14, 271-283.
3. H. Fujisawa, H. Nakamura, and M. Chin (1974). The fine structure of the reconstructed neural retina of chick embryos. *J. Embryol. Exp. Morphol.*, 31, 139-149.
4. Harukazu Nakamura (1975). Analysis of limb anomalies induced in vitro by hypervitaminosis A (retinol) in mice. *Teratology*, 12, 61-70.
5. H. Fujisawa, H. Morioka, K. Watanabe, and H. Nakamura (1976). A decay of gap junctions in association with cell differentiation of neural retina in chick embryonic development. *J. Cell Sci.*, 22, 585-596.
6. H. Fujisawa, H. Morioka, H. Nakamura, and K. Watanabe (1976). Gap junctions in the differentiated neural retinae of newly hatched chickens. *J. Cell Sci.*, 22, 597-606.

7. Mineo Yasuda and Harukazu Nakamura (1977). Litter effects on the type of limb malformations induced with hypervitaminosis A in mouse fetuses. *Cong. Anom.*, 17, 177-181.
8. Harukazu Nakamura (1977). Digital anomalies in the embryonic mouse limb cultured in the presence of excess vitamin A. *Teratology*, 16, 195-202.
9. Harukazu Nakamura, Hajime Fujisawa, Kenji Watanabe, Seiichi Kubo and Yasuhiko Ibata (1978). Mouse muscle cell differentiation in clonal culture. *Develop. Growth Differ.*, 20, 49-54.
10. Harukazu Nakamura and Mineo Yasuda (1979). An electron microscopic study of periderm cell development in mouse limb buds. *Anat. Embryol.*, 157, 121-132
11. 今川俊一郎、安田峯生、仲村春和、片桐則明 (1981). 5-fluorouracil 誘発マウス多指の奇形成立機序について。整形外科 32, 1440-1442.
12. 片桐則明、安田峯生、仲村春和、津下健哉、渡捷一 (1982). 5-fluorouracil 誘発マウス多指、減指の指放線形成期における血管系の変化。中部日本整形外科学会雑誌 25, 1249-1253.
13. 片桐則明、安田峯生、仲村春和、津下健哉、渡捷一、今川俊一郎 (1982). 先天性奇形手の血管系に関する実験的、臨床的研究。整形外科 33, 1466-1469.
14. Harukazu Nakamura and Christiane Ayer-Le Lievre (1982). Mesectodermal capabilities of the trunk neural crest of birds. *J. Embryol. Exp. Morphol.* 70, 1-18.
15. Harukazu Nakamura, Mineo Yasuda, Akinao G. Sato, Michinobu Gocho, Hiromu Mishima, Sadahiro Hirashima, and Minoru Takeshita (1982). Heteroplasia of the skin in the cornea of a guinea pig. *Cong. Anom.*, 22, 363-368.
16. Mineo Yasuda and Harukazu Nakamura (1983). Pathogenesis of limb malformations in mice: an electron microscopic study. in 'Limb Development and Regeneration. Part A.' (eds. J. F. Fallon and A. I. Caplan). pp 301-310. Alan R. Liss, Inc. New York
17. Kensuke E. Nakano and Harukazu Nakamura (1985). Origin of the irideal striated muscle in birds. *J. Embryol. Exp. Morphol.*, 88, 1-13.
18. Abdul Razak Datu, Harukazu Nakamura, and Mineo Yasuda (1985). Pathogenesis of the mouse forelimb deformity induced by acetazolamide: an electron microscopic study. *Teratology*, 31, 253-263.
19. Hiroharu H. Igawa, Harukazu Nakamura and Mineo Yasuda (1985). Bis(dichloroacetyl)diamine-induced craniofacial anomalies in Jcl:ICR and A/J mice. *Cong. Anom.*, 25, 45-56.
20. Abdul Razak Datu, Harukazu Nakamura and Mineo Yasuda (1986). Development of the apical ectodermal ridge and changes in the subepidermal mesenchyme in mouse limb buds. in 'Progress in Developmental Biology, Part B.' (ed. H. Slavkin). pp 437-440, Alan R. Liss Inc., New York.
21. Harukazu Nakamura, Kenji Watanabe, Christiane Ayer-Le Lièvre and Nicole Le Douarin (1986). Origin of the thymic myoid cells in birds. in 'Progress in Developmental Biology, Part B.' (ed. H. Slavkin). pp 255-258, Alan R. Liss, Inc, New York. 22. K. A. Matsui, H. Nakamura, and M. Yasuda (1986). Alkaline phosphatase activity in the neural tube of the mouse embryo. in 'Progress in Developmental Biology, Part B.' (ed. H. Slavkin). pp 145-148, Alan R. Liss, Inc., New York.

23. 平林徹、仲村春和、安田峯生 (1986). 5-フルオロウラシル(5-FU)誘発ニワトリ胚脚軸前性多指の発生過程. 日本手の外科学会雑誌 3, 164-167.
24. 秋本尚孝、佐藤幸男、李俊益、隅田寛、仲村春和、岡本直正 (1986). 正常および異常心・大血管発生過程における神経堤細胞の果す役割. 広島大学原爆放射能医学研究所年報 27, 211-223
25. Harukazu Nakamura, Kensuke E. Nakano, and Mineo Yasuda (1986). The ontogeny of thymic myoid cells in the chicken. *Develop. Growth Differ.*, 28, 185-190.
26. Harukazu Nakamura, Kensuke E. Nakano, Hiroharu H. Igawa, Shin Takagi, and Hajime Fujisawa (1986). Plasticity and rigidity of differentiation of brain vesicles studied in quail-chick-chimeras. *Cell Differ.*, 19, 187-193.
27. Hiroharu H. Igawa, Mineo Yasuda, Harukazu Nakamura, and Takehiko Ohura (1986). Changes in the subepithelial mesenchymal cell process meshwork in developing facial prominences in mouse embryos. *J. Craniofac. Genet. Dev. Biol.*, 6, 27-39.
28. Hiroshi Sumida, Harukazu Nakamura, Naotaka Akimoto, Naomasa Okamoto, and Yukio Satow (1987). Desmin distribution in the cardiac outflow tract of the chick embryo during aortico-pulmonary septation. *Arch. Histol. Jpn.* 50 525-531.
29. Satoshi Kawamura, Harukazu Nakamura, and Mineo Yasuda (1988) Appearance of a stage-specific prominence during mouse forelimb morphogenesis. *Cong. Anom.*, 28, 51-53.
30. Harukazu Nakamura, Shin Takagi, Toshiaki Tsuji, Kohji A. Matsui and Hajime Fujisawa (1988). The Prosencephalon has the capacity to differentiate into the optic tectum: Analysis by chick-specific monoclonal antibodies in quail-chick-chimeric brains. *Dev. Growth Differ.* 30, 717-725
31. Hiroshi Sumida, Harukazu Nakamura, and Yukio Satow (1989). Localization of fibronectin and 140 Kd fibronectin receptor in the truncus arteriosus of the chick embryonic heart. *Arch. Histol. Cytol.* 52, 31-36
32. Hiroshi Sumida, Naotaka Akimoto, and Harukazu Nakamura (1989). Distribution of the neural crest cells in the heart of birds: a three dimensional analysis. *Anat. Embryol.*, 180, 29-35.
33. Harukazu Nakamura and Dennis D.M. O'Leary (1989) Inaccuracies in initial growth and arborization of chick retinotectal axons followed by course corrections and remodeling to develop topographic order. *J. Neurosci.* 9(11), 3776-3795.
34. Nobue Itasaki, Harukazu Nakamura and Mineo Yasuda (1989) Changes in the arrangement of actin bundles during heart looping in the chick embryo. *Anat. Embryol.* 180, 413-420.
35. Harukazu Nakamura (1990) Do CNS anlagen have plasticity in differentiation? Analysis in quail-chick-chimera. *Brain Res.* 511, 122-128
36. Hiroyuki Ichijo, Setsuya Fujita, Toru Matsuno, and Harukazu Nakamura (1990) Rotation of the tectal primordium reveals plasticity of target recognition in retino-tectal projection. *Development*, 110, 331-342
37. Hiroshi Sumida, Harukazu Nakamura, and Yukio Satow (1990) Distribution of Vitronectin in the embryonic chick heart during endocardial cell migration. *Arch. Histol. Cytol.* 53, 81-88

38. H. Sumida, H. Nakamura, and Y. Satow (1990) Distribution of vitronectin and its receptor in embryonic human heart. *Ann. New York Acad. Sci.* 588, 444-445
39. Takashi Kobayashi, Harukazu Nakamura and Mineo Yasuda (1990) Disturbance of refinement of retinotectal projection in chick embryos by tetradotoxin and grayanotoxin. *Dev. Brain Res.*, 57, 29-35.
40. Toru Matsuno, Hiroyuki Ichijo and Harukazu Nakamura (1991) Regulation of the rostrocaudal axis of the optic tectum: histological study after rostrocaudal rotation in quail-chick chimeras. *Dev. Brain Res.*, 58, 265-270.
41. Nobue Itasaki, Harukazu Nakamura, Hiroshi Sumida and Mineo Yasuda (1991) Actin bundles on the right side in the caudal part of the heart tube play a role in dextro-looping in the embryonic chick heart. *Anat. Embryol.* 183: 29-39
42. Hiroshi Sumida, Harukazu Nakamura and Yukio Satow (1991) Relation of the distribution of fibronectin to the obliteration of the arch artery in the chick. *Arch. Histol. Cytol.*, 54, 89-94.
43. Harukazu Nakamura, Kohji A. Matsui, Shin Takagi and Hajime Fujisawa (1991) Projection of the retinal ganglion cells to the tectum differentiated from the prosencephalon. *Neurosci. Res.*, 11, 189-197
44. Harukazu Nakamura and Nobue Itasaki (1991) Analysis of cardiac loop formation in avian embryos with spontaneous heart malformations. *Cong. Anom.*, 31, 315-322.
45. Gen Murakami and Harukazu Nakamura (1991) Somites and the pattern formation of trunk muscles: study in quail-chick chimera. *Arch. Histol. Cytol.*, 54, 249-258.
46. Nobue Itasaki, Hiroyuki Ichijo, Chihiro Hama, Toru Matsuno and Harukazu Nakamura (1991) Establishment of rostrocaudal polarity in tectal primordium: engrailed expression and subsequent tectal polarity. *Development*, 113, 1133-1144.
47. Nobue Itasaki and Harukazu Nakamura (1992) Rostrocaudal polarity of tectum in birds: Correlation of en gradient and topographic order in retinotectal projection. *Neuron*, 8, 787-798.
48. Harukazu Nakamura and Nobue Itasaki (1992) Expression of en in the prosencephalon heterotopically transplanted into the mesencephalon. *Develop. Growth Differ.*, 34, 387-391.
49. Toru Matsuno, Nobue Itasaki, Hiroyuki Ichijo and Harukazu Nakamura (1992) Retinotectal projection after partial ablation of chick optic vesicles. *Neurosci. Res.*, 15, 96-101.
50. Sumida H, Nakamura H, Yasuda M. (1992) Role of vitronectin in embryonic rat endocardial cell migration in vitro. *Cell Tissue Res.* 1992 Apr;268(1):41-9.
51. Toru Matsuno and Harukazu Nakamura (1993) Plasticity of avian mesencephalic polarity revealed by trajectories of tectofugal axons. *Dev. Brain Res.* 75, 39-44.
52. Nobue Itasaki and Harukazu Nakamura (1996) A role of gradient en expression in positional specification on the optic tectum. *Neuron*, 16, 55-62.
53. Yasuyo Shigetani, Jun-ichi Funahashi and Harukazu Nakamura (1997) En-2 regulates the expression of the ligands for Eph type tyrosine kinases in chick embryonic tectum. *Neurosci. Res.* 27, 211-217

54. Yoshio Wakamatsu, Yuko Watanabe, Harukazu Nakamura and Hisato Kondoh (1997) Regulation of the neural crest fate by N-myc: promotion of ventral migration and neuronal differentiation. *Development*, 124, 1953-1962
55. Hiroshi Sumida, Harukazu Nakamura, Robert P. Thompson and Mineo Yasuda (1997) Binding of lectins to novel migration promoters on cardiac mesenchymal cells in the chick. *Cell Struct. Funct.*, 22, 413-420.
56. Sayaka Sugiyama, Jun-ichi Funahashi, Jan Kitajewski, Harukazu Nakamura (1998) Cross regulation between En-2 and Wnt-1 in the chick tectal development. *Develop. Growth Differ.* 40, 157-166.
57. Sakamoto, K., Nakamura, H., Takagi, M., Takeda, S. and Katsube, K. (1998) Ectopic expression of lunatic Fringe leads to downregulation of Serrate-1 in the developing chick neural tube; analysis in ovo electroporation transfection technique. *FEBS Let.*, 426, 337-341.
58. Tanaka, M., Shigetani, Y., Sugiyama, S., Tamura, K., Nakamura, H., Ide, H. (1998) Apical ectodermal ridge induction by the transplantation of En-1-overexpressing ectoderm in chick limb bud. *Dev. Growth Differ.*, 40, 423-429.
59. J. Funahashi, T. Okafuji, H. Ohuchi, S., Noji, Tanaka, H., and H. Nakamura (1999) Role of Pax-5 in the regulation of a mid-hindbrain organizer's activity. *Dev. Growth Differ.*, 41, 59-72.
60. Tatsuya Okafuji, J. Funahashi and H. Nakamura (1999) Roles of Pax-2 in initiation of the chick tectal development. *Dev. Brain Res.*, 116, 41-49.
61. Isato Araki and Harukazu Nakamura (1999) Engrailed defines the position of dorsal di-mesencephalic boundary by repressing diencephalic fate. *Development*, 126, 5127-5135.
62. Tatsuya Katahira, Tatsuya Sato, Sayaka Sugiyama, Tatsuya Okafuji, Isato Araki, Jun-ichi Funahashi and Harukazu Nakamura (2000) Interaction between Otx2 and Gbx2 defines the organizing center for the optic tectum. *Mech. Dev.* 91, 43-52.
63. Kazuko Koshiba-Takeuchi, Jun K. Takeuchi, Ken Matsumoto, Tsuyoshi Momose, Kenichiro Uno, Veit Hoepker, Keiko Ogura, Naoki Takahashi, Harukazu Nakamura, Kunio Yasuda, and Toshihiko Ogura (2000) Tbx5 and the retinotectum projection. *Science*, 287, 134-137
64. Yuji Watanabe, Harukazu Nakamura (2000): Control of chick tectum territory along dorsoventral axis by sonic hedgehog. *Development*, 127, 1131-1140
65. S. Sugiyama, J. Funahashi, H. Nakamura (2000): Antagonizing activity of chick Grg4 against tectum-organizing activity. *Dev. Biol.* 221, 168-180.
66. Matsunaga, E., Araki, I., Nakamura, H., (2000) Pax6 defines the di-mesencephalic boundary by repressing En1 and Pax2. *Development*, 127, 2357-2365.
67. Fujii, T., J. Funahashi, R. Matsuura, T. Izaki, H. Nakamura, T. Mikawa, and H. Tanaka (2000) Axonal growth of the spinal cord interneurons expressing a homophilic adhesion molecule SC1 ectopically. *Neurosci. Res.* 38, 175-181.
68. Sato, T., Araki, I., Nakamura, H. (2001) Inductive signal and tissue responsiveness to define the tectum and the cerebellum. *Development*, 128: 2461-2469.

69. Matsunaga, E., Araki, I., Nakamura, H. (2001) Role of Pax3/7 in the tectum regionalization. *Development*, 128, 4069-4077.
70. Ye W, Bouchard M, Stone D, Liu X, Vella F, Lee J, Nakamura H, Ang SL, Busslinger M, Rosenthal A. Distinct regulators control the expression of the mid-hindbrain organizer signal FGF8. *Nat Neurosci.* 4, 1175-1181, 2001
71. Kishimoto KN, Watanabe Y, Nakamura H, Kokubun S (2002) Ectopic bone formation by electroporatic transfer of bone morphogenetic protein-4 gene. *Bone* 31, 340-347
72. Matsunaga, E., Katahira, T., Nakamura, H. (2002) Role of Lmx1b and Wnt1 in mesencephalon and metencephalon development. *Development*, 129: 5269-5277.
73. Sayaka Sugiyama and Harukazu Nakamura (2003) The role of Grg4 in tectal laminar formation. *Development*, 130, 451-462
74. Katahira, T., Nakamura, H.: Gene silencing in chick embryos with vector-based small interfering RNA system. *Develop. Growth Differ.* 45, 361-367, 2003.
75. Watanabe, Y., Toyoda, R. and Nakamura, H. (2004): Navigation of Trochlear axons along the midbrain-hindbrain boundary to neuropilin-2. *Development*, 131, 681-692
76. Kimura, J., Katahira, T., Araki, I., Nakamura, H. (2004) Possible role of Hes5 for the rostrocaudal polarity formation of the tectum. *Dev. Growth Differ.*, 46 219-227.
77. T. Sato, T. and H. Nakamura (2004) The Fgf8 signal causes cerebellar differentiation by activating Ras-ERK signaling pathway. *Development* 131, 4275-4285.
78. Suzuki-Hirano, A., Sato, T., and Nakamura, H. (2005) Regulation of isthmus Fgf8 signal by Sprouty2. *Development*, 132, 257-265. PMID: 15590739
79. Toyoda, R., Nakamura, H., Watanabe, Y. (2005) Identification of protogenin, a novel immunoglobulin superfamily gene expressed during early chick embryogenesis. *Gene Exp. Pattern*, 5, 778-785. PMID: 15922677
80. Makoto Sakuragi, Noriaki Sasai, Makoto Ikeya, Masako Kawada, Tatsuya Katahira, Harukazu Nakamura and Yoshiki Sasai (2006) Functional Analysis of Chick ONT1 Reveals Distinguishable Activities among Olfactomedin-Related Signaling Factors. *Mech Develop.* 123, 114-123. PMID: 16412616
81. Matsunaga E, Nakamura H, Chedotal A. (2006) Repulsive guidance molecule plays multiple roles in neuronal differentiation and axon guidance. *J Neurosci.* 26, 6082-6088.
82. Hiromitsu Miyazaki, Toshimitsu Kobayashi, Harukazu Nakamura and Jun-ichi Funahashi (2006) a Role of Gbx2 and Otx2 in the formation of cochlear ganglion and endolymphatic duct. *Dev Growth Differ.*, 48, 429-438.
83. Motoko Aoki, Michihiro Mieda, Toshio Ikeda, Yoshio Hamada, Harukazu Nakamura, Hitoshi Okamoto (2006) R-spondin3 is required for mouse placental development. *Dev Biol.*, 301 (1) 218-226
84. Noritaka Odani, Samuel L. Pfaff, Harukazu Nakamura and Jun-ichi Funahashi (2007) Cloning and developmental expression of a chick G-protein-coupled receptor SCGPR1. *Gene Exp Pattern*, 7, 375-380.

85. Yasuhiro Omata, Yasuhiro Nojima, Satomi Nakayama, Hitoshi Okamoto, Harukazu Nakamura and Jun-ichi Funahashi (2007) Role of Bone morphogenetic protein 4 in zebrafish semicircular canal development. *Dev Growth Differ* 49, 711-719.
86. Motoko Aoki, Hiroshi Kiyonari, Harukazu Nakamura and Hitoshi Okamoto, (2008) R-spondin2 expression in the apical ectodermal ridge is essential for outgrowth and patterning in mouse limb development. *Dev Growth Differ.* 50, 85-95
87. Hidekiyo Harada, Yoshiko Takahashi, Koich Kawakami, Toshihiko Ogura, Harukazu Nakamura (2008) Tracing retinal fiber trajectory with a method of transposon-mediated genomic integration in chick embryo. *Dev Growth Differ.*, 50, 697-702.
88. Kobayashi, Y., Nakamura, H., Funahashi, J. 2008. Epithelial-mesenchymal transition as a possible mechanism of semicircular canal morphogenesis in chick inner ear. *Tohoku J. Exp Med.*, 215, 207-217.
89. Xubin Hou, Tatsuya Katahira, Jun Kimura and Harukazu Nakamura (2009) Expression of chick Coactosin in cells in morphogenetic movement. *Dev. Growth Differ.* 51, 833–840
- 90 Asuka Suzuki-Hirano, Hidekiyo Harada, Tatsuya Sato, Harukazu Nakamura (2010) Activation of Ras-ERK pathway by Fgf8 and its downregulation by Sprouty2 for the isthmus organizing activity. *Dev. Biol.*, 337, 284-293.
91. Tanaka, J., Harada, H., Ito, K., Ogura, T., Nakamura, H. (2010) Gene manipulation of chick embryos in vitro, EC culture, and long survival in transplanted eggs. *Dev Growth Differ* 52, 629-634.
92. Gotoh H, Ono K, Takebayashi H, Harada H, Nakamura H, Ikenaka (2011) Genetically-defined lineage tracing of Nkx2.2-expressing cells in chick spinal cord. *Dev. Biol.*, 349, 504-511 doi: 10.1016/j.ydbio.2010.10.007
93. Xubin Hou, Minoru Omi, Hidekiyo Harada, Shunsuke Ishii, Yoshiko Takahashi and Harukazu Nakamura (2011) Conditional knockdown of target gene expression by tetracycline regulated transcription of double strand RNA. *Dev Growth Differ* 53, 69-75. Doi: 10.1111/j.1440-169X.2010.01229.x
94. Kodai Ito,, Harukazu Nakamura, Yuji Watanabe (2011) Protogenin mediates cell adhesion for ingression and re-epithelialization of the paraxial mesodermal cells. *Dev Biol.* 351, 13-24. Doi: 10.1016/j.ydbio.2010.11.024
95. Omi M, Harada H, Nakamura H. 2011 Identification of retinotectal projection pathway in the deep tectal laminae in the chick. *J Comp Neurol.* 519:2615–2621, 2011 Apr 13. doi: 10.1002/cne.22642
96. Akiha Kawasaki-Nishihara, Daisuke Nishihara, Harukazu Nakamura, and Hiroaki Yamamoto (2011) ET3/Ednrb2 Signaling Is Critically Involved in Regulating Melanophore Migration in Xenopus. *DEV. DYN.* 240:1454–1466 DOI 10.1002/dvdy.22649
97. Yuji Watanabe and Harukazu Nakamura (2012) Nuclear translocation of intracellular domain of PRTG by proteolytic cleavage. *Dev. Growth Differ.*, 54, 167-176. Doi: 10.1111/j.1440-169X.2011.01315.x.
98. Ayumu Suzuki, Hidekiyo Harada and Harukazu Nakamura (2012) Nuclear translocation of FGF8 and its implication to induce Sprouty2. *Dev Growth Differ.*, 54 (4) 463–473. Doi: 10.1111/j.1440-169X.2012.01332.x.
99. Daisuke Nishihara, Ichiro Yajima², Hiromasa Tabata, Masato Nakai, Nagaharu Tsukiji, Tatsuya Katahira, Kazuhisa Takeda, Shigeki Shibahara⁵, Harukazu Nakamura and Hiroaki Yamamoto (2012) Otx2 is involved in the regional

specification of the developing retinal pigment epithelium by preventing the expression of Sox2 and Fgf8, factors that induce neural retina differentiation. Plos One in press

100. Hitoshi Gotoh, Ph.D.; Katsuhiko Ono, Ph.D.; Tadashi Nomura, Ph.D.; Hirohide Takebayashi, M.D., Ph.D.; Hidekiyo Harada, Ph.D.; Harukazu Nakamura, Ph.D.; Kazuhiro Ikenaka, Ph.D. (2012) Nkx2.2+ progenitors generate somatic motoneurons in the chick spinal cord. PLOS ONE 7 (12) e51581. doi:10.1371/journal.pone.0051581

その他

1. 仲村春和 (1986) ニワトリ・ウズラ・キメラ法で発生学の新境地を開いたル・ドゥアラン先生 ミクロスコピア 3, 33-36
2. 仲村春和 (1987) ドゥアラン先生と京都賞 ミクロスコピア 4, 181-184.
3. 寺島俊雄、仲村春和(1989) ワシントン大学医学部マクドネル高次脳機能研究所 生物物理 29, 214-217
4. 仲村春和 (1998) 実験発生学に新しいテクニックを導入 内藤財団時報 pp51-52
5. 仲村春和 (2004) 一寸法師の仕事：峡部オーガナイザーの発見へ 細胞工学 vol 23 (8) 一枚の写真館
6. 仲村春和 (2007) Ecole de Nogent とその一員として 日仏生物学会誌 47, 9-12.
7. 仲村春和 (2010) 留学とその後の研究の展開 日仏生物学会誌 50, 88-90

Journal の表紙

Dev. Growth Differ. Vol. 31, no. 4
Dev. Growth Differ. Vol. 41, no. 1
Dev. Growth Differ. Vol. 45, no. 4
Dev. Growth Differ. Vol. 50, no. 8
Dev. Growth Differ. Vol. 52, no. 7
Dev. Growth Differ. Vol. 54, no. 2

V. 学会発表

特別講演

1. 網膜視蓋投射の発生：ニワトリ－ウズラキメラでの解析
仲村春和 日仏生物学会第134回例会 1990年11月20日 京都
2. 中枢神経系の分化および神経回路形成
仲村春和 青蓮会平成3年度・大学支部・京都支部共催講演会 1992年3月7日
3. 神経回路形成のメカニズム：網膜視蓋投射系を中心にして
仲村春和 味と匂の若手セミナー
1995年9月26日, 東京
4. 中脳と小脳の領域形成
仲村春和 第32回新潟神経学夏期セミナー、神経回路形成のメカニズム、2002年7月26日
5. 仲村春和 中枢神経系のパターン形成：遺伝子強制発現による研究 日耳鼻宮城県地方部会 第112回例会・学術講演会、2003.3.23, 仙台

公開講座

1. 視蓋分尾極性決定の分子機構、仲村春和、文部省重点領域研究「神経回路の機能発達」公開シンポジウム、脳における分化と神経回路発達、1996年2月10日、東京
2. 中脳視蓋のプラン 仲村春和
平成10年度文部省科学研究費特定領域研究「ボディプラン」公開シンポジウム「動物のボディプランの分子的基础」1998年10月31日、東京
3. 仲村春和：神経形成と脳研究の今後の展開、第17回「大学と科学」公開シンポジウム、動物の形作り－その最前線と展開 2002、11、19-20、東京
4. 私たちの脳はいかにして作られ機能するようになるか。
仲村春和 第44回日本発生生物学会大会、市民公開講座 沖縄県宜野湾市、2011年5月21日

セミナー

1. Mesectodermal capacity of the trunk neural crest cells.
Harukazu Nakamura University of Southern California, Los Angeles, 4 March 1982
2. Mesectodermal capacity of trunk neural crest in birds.
Harukazu Nakamura University of California San Francisco, 8 March 1982
3. Tectum Polarity and En2 gradient.
Harukazu Nakamura Institut d'Embryologie cellulaire et moleculaire du CNRS et de College de France. Paris, 1 June 1993
4. Establishment of the tectal polarity by En2 gradient.
Harukazu Nakamura Hopital de la Salpetriere, Paris, 2 June 1993
5. Fgf8 signal to organize the cerebellum and tectum .
Harukazu Nakamura Seminarios de Investigacion Instituto de Neurociencias, 7 July, Miguel Hernández University of Elche, 2003
6. Isthmus organizing signal for tectal and cerebellar differentiation.
Harukazu Nakamura Ecole Normale Supérieure, Paris 29 April 2005
7. Chick embryos as a research mode and manipulation of gene-electroporation.
Harukazu Nakamura National Defence Medical Center, Taiwan, 21 April, 2009
8. Fgf8 signaling for differentiation of the tectum and cerebellum

シンポジウム及びワークショップ

シンポジウム・ワークショップにおける講演

1. 仲村春和 「マウスの遺伝性肢奇形」第18回日本先天異常学会総会 小シンポジウム 「ヒトの先天異常の動物モデル」1978年7月13-14日 横浜
2. 仲村春和 「いわゆるAPUD系とneural crest」日本病理学会第27会秋期特別総会 シンポジウム 「いわゆるAPUD系とその病理」1981年10月26-27日 東京
3. H. Nakamura 'Neural crest tumors defined: Animal experimentation on neural crest differentiation'. US-JAPAN Workshop on Neural Crest Tumor. 1-2 March, 1982, Honolulu, Hawaii, USA
4. H. Nakamura 'Mesectodermal capabilities of the neural crest'. Yamada Conference VIII on Transdifferentiation and Instability in Cell Commitment. 20-24 August, 1984, Kyoto
5. 仲村春和、青山裕彦、江藤一洋 「Neural crest cell の移動とECM」日本発生生物学会第18回大会 ワークショップ 「胚の形態形成における細胞運動とECM」1985年5月9-11日 名古屋
6. K. A. Matsui, H. Nakamura, and M. Yasuda 'Alkaline phosphatase activity in the neural tube of the mouse embryo'. 10th International Congress of the International Society of Developmental Biologists. Minisymposium: Pattern Formation in Nervous System. 4-9 August, 1985, Los Angeles, California, USA
7. H. Nakamura, K. Watanabe, C. Ayer Le Lievre, and N. Le Douarin 'Origin of the thymic myoid cells in birds'. 10th International Congress of the International Society of Developmental Biologists. Minisymposium: Neural Crest Cells. 4-9 August, 1985, Los Angeles, California, USA
8. A. R. Datu, H. Nakamura, and M. Yasuda 'Development of apical ectodermal ridge and changes in subectodermal mesenchyme'. 10th International Congress of the International Society of Developmental Biologists. Minisymposium: Epithelial-Mesenchymal Interactions. 4-9 August, 1985 Los Angeles, California, USA
9. 仲村春和「脳胞の分化の可塑性について」第18回神経科学懇話会 第91会日本解剖学会学術集会関連集会 1986年4月1日 東京
10. Harukazu Nakamura 'Plasticity in differentiation of nervous system'. 9th Meeting of the Indonesian Surgeons' Association. 6-9 July, 1987, Den Pasar, Bali
11. Harukazu Nakamura 'Limb morphogenesis'. 9th Meeting of the Indonesian Surgeons' Association. 6-9 July, 1987, Den Pasar, Bali
12. 仲村春和「脳の発達と可塑性—鳥類の場合」文部省特定研究 夏のワークショップ 「感覚運動系」1987年8月28-30日 近江八幡
13. Harukazu Nakamura and Hiroshi Sumida 'Cellular aspects of the aortico-pulmonary septum in birds'. The Third Symposium on Etiology and Morphogenesis of Congenital Heart Disease. 3-5 Nov. 1988, Tokyo
14. Nobue Itasaki, Harukazu Nakamura and Mineo Yasuda, 'Changes in the arrangement of actin filaments during heart looping in the chick embryo'. The Third Symposium on Etiology and Morphogenesis of Congenital Heart Disease. 3-5 Nov. 1988, Tokyo.
15. 仲村春和「視神経の標的選択」文部省重点領域研究 神経回路形成の分子機構 1989年度ワークショップ1 神経発生の諸問題 1989年7月9-10 裾野市 富士教育研究所
4. Harukazu Nakamura 'Development of retinotectal projection in birds'. 2nd Seminar Molecular and Developmental Neurobiology sponsored by Japan Intractable Diseases Research Foundation. Jan. 11-12, 1990, Tokyo
16. Harukazu Nakamura 'How does the projection of avian optic nerve fibers mature?' The 15th Seiriken Conference on Mechanisms of Neural Development and Reorganization. Feb. 7-10, 1990, Seiriken, Okazaki
17. 仲村春和「中枢神経系の分化の可塑性と神経回路形成」第96回日本解剖学会総会 シンポジウムI「分

- 子-細胞-形態形成-その連続性を求めて」(世話人安田峯生, 仲村春 和), 1991年4月1-3日, 京都
18. H. Nakamura 'Determination of rostro-caudal polarity in the optic tectum'. Meetings in Neural Development. June 3 - June 6, 1991, New York.
 19. 仲村春和「視蓋の吻尾軸とホメオボックス遺伝子engrailed」第17回器官形成研究会 「高次形態形成の分子機構」1991年12月9日 八王子(都立大)
 20. 仲村春和「視蓋の極性の発生と視神経の標的選択」日本神経科学学会 第15回大会 シンポジウム「神経標的認識機構」(オーガナイザー 仲村春和, 寺島俊雄)1991年 12月19日, 東京
 21. H. Nakamura, N. Itasaki and T. Matsuno 'Development of avian tectum polarity: engrailed expression, morphogenesis, and neural circuit formation'. First IUBMB Conference Biochemistry of Diseases, June 1-6, 1992 Nagoya
 22. 板崎伸栄, 仲村春和「ニワトリ視蓋の吻尾極性, engrailed, 組織発生, 網膜視蓋投射」大阪大学蛋白質研究所セミナー「神経形成の制御」1992年9月28-29日, 大阪大学, 吹田
 23. H. Nakamura and N. Itasaki 'Establishment of the polarity of the avian optic tectum: Engrailed expression and retinotectal projection'. The 7th Takeda Science Foundation Symposium on Bioscience. Cell-Cell Signaling and Morphogenesis. Nov. 29 - Dec. 2, 1992, Kyoto
 24. H. Nakamura and N. Itasaki 'Engrailed and rostrocaudal polarity of the chick tectum'. The 31st NIBB Conference: Japan-France Collaborative Workshop on Gene Manipulation in Aves. March 24-26, 1993, Okazaki
 25. 仲村春和「鳥類視蓋吻尾軸決定の遺伝子的背景」第6回ブレインサイエンス研究会 1993年3月1日, 東京
 26. H. Nakamura and Nobue Itasaki 'Development of avian tectal polarity: Engrailed expression, morphogenesis, and neural circuit formation'. The Joint Meeting of the American Association of Anatomists and the Japanese Association of Anatomists: Morphogenesis Club 'Retinoids and Homeobox Genes in Pattern Formation' (Organizers: M. Solursh and M. Yasuda). March 27-31, 1993, San Diego
 27. Harukazu Nakamura 'Maps, gradient molecules and neuronal identity'. Nato Advanced Research Workshops Programme. May 23-29, 1993, Calgese, France.
 28. H. Nakamura and N. Itasaki 'Actin bundle and cardiac loop formation in chick embryos'. The fourth International Symposium on Etiology and Morphogenesis of Congenital Heart Disease. Nov. 25-27, 1993, Tokyo.
 29. H. Sumida, H. Nakamura and M. Yasuda 'The interaction between cardiac mesenchymal cells and the extracellular matrix in the rat and chick in vitro'. The fourth International Symposium on Etiology and Morphogenesis of Congenital Heart Disease. Nov. 25-27, 1993, Tokyo.
 30. H. Nakamura 'Polarity formation in the avian optic tectum'. Neurobiology VI Molecular and Developmental Biology of Neural Networks. Jan. 20-21, 1994, Tokyo
 31. H. Nakamura and N. Itasaki 'Establishment of rostrocaudal polarity of the chick optic tectum. 5th International Symposium on Neural Transplantation'. Symposium "Study of development through neural transplantation. June, 25-29, 1994, Chatenay-Malabry, France
 32. 仲村春和「神経回路形成の分子機構」阪大蛋白研東北大加齢研ジョイントセミナー 細胞機能分化の制御機構、1994年10月6-7日、仙台
 5. H. Nakamura, N. Itasaki and J. Funahashi 'Retinotectal projection and tectal polarity formation in chick embryos'. 8th International Conference of the International Society of Differentiation (ISD) (Developmental Biology, Differentiation and Cancer: Toward the 21st Century) Symposium 'Molecular Neuro-Developmental Biology Including Homeotic Genes.' Oct. 22-26, 1994, Hiroshima.
 6. Harukazu Nakamura 'Molecular mechanisms of neural circuit formation'. The 22nd Symposium of the Institute of Medical Science, Hallym University, 'Current Progress in Brain Research', Feb. 17, 1995, Seoul,

7. 仲村春和「中枢神経系における神経回路形成の分子機構」第13回加齢研シンポジウム, 脳の高次機能の構築ー発生・可塑性・マッピングー, 1995年2月24日(世話人, 仲村春和, 福田寛)
8. 仲村春和「中枢神経系の神経回路形成の分子メカニズム」日本解剖学会第100回総会記念学術集会, シンポジウム「神経分化機序の解析のねらい」1995年4月1-4日, 東京
9. Harukazu Nakamura 'Mechanisms of the establishment of rostrocaudal polarity of the optic tectum'. NEURAL GRAFTS: New Perspectives on the Development and Repair of the Nervous System. May 9-14, 1995, Fondation des Treilles, France
10. 舟橋淳一, 仲村春和「中脳の位置特異性形成に関わる遺伝子群ーショウジョウバエとのアナロジーはどこまで通用するか」第68回日本生化学会大会シンポジウム「神経発生の分子細胞生物学」世話人 仲村春和, 御子柴克彦 1995年9月16-18日, 仙台
11. 仲村春和, 板崎伸栄, 舟橋淳一「ニトリ視蓋吻尾極性形成の分子メカニズム」第18回日本分子生物学会年会, 「モデル生物系を用いた神経系の発生・分化の解析」1995年12月7日, 名古屋
12. Jun-ichi Funahashi and Harukazu Nakamura 'Crosstalk between vertebrate homologue of Drosophila segmentation genes in chick brain and their role in specification of positional specificity'. Taniguchi International Symposium, Division of Biophysics, on Generation of neuronal diversity and specificity in the brain. March 11-14, 1996, Kyoto
13. 仲村春和「中枢神経系のアイデンティティの形成機構」第13回Wakoワークショップ 1997年11月5日東京
14. Harukazu Nakamura 'Development of the chick optic tectum'. A-P Patterning of the Nervous System. organized by Shinichi Aizawa and Peter Gruss 6-7 Nov. 1997 Kumamoto
15. Harukazu Nakamura 'Development of the Optic tectum: Induction, Polarity Formation and Circuit formation'. NIG Mini-symposium on Neuronal Circuit Formation. 5 Dec. 1997, Mishima.
16. Harukazu Nakamura 'Mechanisms of optic tectum development'. Japan-Canada Partnership in Neuroscience, Workshop on Developmental Neurobiology. Kananaskis, March 12-15, 1998
17. Harukazu Nakamura 'Molecular mechanisms of optic tectum development: Induction, polarity formation and circuit formation'. Experimental Biology '98, US-Japan symposium on Signaling Molecules and Tissue Interactions in Morphogenesis. San Francisco, April 18-22, 1998
18. 仲村春和「視蓋の形態形成、極性形成」第14回形態科学シンポジウム「神経の発生と再生・機能再建」、1998年11月21日、京都
19. 仲村春和「視蓋の誘導・分化・極性」生理学研究所研究会「脳神経系幹細胞の発生と細胞移動・幹細胞の発生・分化」1998年11月26-27日、岡崎
20. 仲村春和「視蓋の発生・分化機構」京都大学ウイルス研コロキウム「発生研究の最前線」1999年2月17-18日、京都
21. Harukazu Nakamura 'Definement of the tectum compartment and its polarity formation'. HFSP group-BSI Joint Forum Wiring Molecules in Brain Development and Plasticity, 29-30 March 1999, RIKEN, WAKO
22. 仲村春和「中枢神経系のアイデンティティの形成機構」第25回医学会総会、シンポジウム 神経と発生, 1999年4月2-4日
23. Harukazu Nakamura 'Compartment formation of the optic tectum'. The 3rd Aso Meeting on Vertebrate Body Plan, organized by S. Aizawa and E.M. De Robertis, 3-4, Nov. 1999, Kumamoto
24. 渡邊裕二・片平立矢・佐藤達也・仲村春和「発生中の視蓋の領域化のメカニズム：視蓋となる領域は前後軸、背腹軸上でどのように決まるか」日本組織細胞化学会第40回記念学術集会シンポジウム「器官の再形成を組織細胞化学はどこまで追求できるか？」1999年12月6日 京都市
25. 杉山清佳, 仲村春和「中枢神経系領域化のメカニズム：中脳誘導」幹細胞の発生・分化・移動研究若手の会 2000年1月17日 岡崎市

26. 仲村春和「中脳の領域形成」第77回日本生理学会大会サテライトシンポジウム「ニューロバイオロジー」(植村敬一教授 川村光毅教授定年記念) 2000年3月30日, 慶応大学
27. 松永英治, 荒木功人, 仲村春和「Pax6はEn1, Pax2を抑制し間脳中脳境界を規定する」日本発生生物学会第33回大会 2000年5月24-27日, 高知
28. Matsunaga, E., Araki, I and Nakamura, H. : Specification of Chick Optic Tectum by Repressive Interaction between Pax6 and En1/Pax2. The NIBB International COE Symposium “Mechanisms of Neural Network Formation” 15-17 March. 2000. Okazaki.
29. 松永英治, 荒木功人, 仲村春和 「Pax6はEn1, Pax2を抑制し間脳中脳境界を規定する」 日本発生生物学会第33大会シンポジウム2000年5月24-27日, 高知
30. 渡邊裕二, 仲村春和「中脳の領域化と脳神経の形成」 第23回日本神経科学大会・第10回日本神経回路学会大会 合同大会シンポジウム「神経系の形作りの原理を求めて」 2000年9月4-6日, 横浜
31. 岸本光司, 国分正一, 渡邊裕二, 仲村春和「エレクトロポレーションを用いたBMP遺伝子導入による異所性骨形成」第15回 日本整形外科学会基礎学術集会「新しい骨折治療の基礎」2000年9月28日, 京都
32. 杉山清佳, 仲村春和「中脳視蓋の領域決定と前後極性形成」第73回 日本生化学会大会シンポジウム「神経系におけるパターン形成」2000年10月11-14日, 横浜
33. 仲村春和「中脳の領域形成」平成12年度文部省科学研究費特定領域研究「ボディープラン」「脳のパターン形成」公開シンポジウム2000年10月28日, 東京
34. 佐藤達也, 仲村春和「中脳視蓋の領域特異性および位置特異性の形成」シンポジウム「網膜の発生・分化・再生」2001年2月23-24日, 基生研
35. H. Nakamura 'Regionalization of the optic tectum: Analysis by misexpression with in ovo electroporation. Workshop: Emerging genetic technology in developmental biology'. 14th International Congress of Developmental Biology, 8-12, July, 2001, Kyoto.
36. H. Nakamura 'Mechanisms that define the tectum and the cerebellum'. The 4th Annual Meeting of the Korean Society for Brain and Neural Sciences. Symposium I: Genes in the Developing Brain. Nov. 30-Dec 1, 2001, Seoul
37. 仲村春和「発生学モデル動物としてのニワトリ」第24回日本分子生物学会シンポジウム、ポストゲノムを支えるモデル生物：カエル、ホヤ、ニワトリなど 2001年12月9-12日、横浜
38. Harukazu Nakamura 'Fgf8 signaling for differentiation of the cerebellum and the optic tectum'. 第25回日本分子生物学会年会 シンポジウム「中枢神経系の領域形成」横浜, 2002, 12, 11-14.
39. 松永英治, 仲村春和「ニワトリ胚視蓋領域形成の分子機構」. 第25回日本分子生物学会年会 ワークショップ「発生学モデル動物としてのニワトリ胚」横浜, 2002, 12, 11-14.
40. 仲村春和「視蓋分化における遺伝子発現のタイミング」第108回日本解剖学会総会、全国学術集会、シンポジウム「生体と時間：遺伝子発現のタイミング」世話人岡村均、仲村春和、福岡、2003、4.1-3
41. 仲村春和「脳の領域形成のメカニズム」第21回内分泌・代謝学サマーセミナー、2003.7.24-26、箱根湯本
42. 仲村春和「脳の領域形成のメカニズム」「先端脳」A01班ワークショップ、2003.8.1.東京
43. Harukazu Nakamura, 'Organizing signal that defines the cerebellar and tectal differentiation. International Symposium "Dynamics of Neural Development" Aug. 10-11, 2003, Osaka Senri Life Science Center, Toyonaka, Organizer: F. Murakami & N. Yamamoto
44. Nakamura, H., Sato, T., Isthmus Organizing Signal to Define the Cerebellar and Tectal Differentiation Oxford Kobe Seminars: Fibroblast Growth Factors in Health and Disease, Oct. 12-15, 2003, Kobe Institute
45. 仲村春和, 片平立矢「shRNAによる遺伝子発現阻害：エレクトロポレーションによる発現ベクター導入法」第26回日本分子生物学会年会、バイオテクノロジーセミナー、2003年12月10-13日、神戸

46. Harukazu Nakamura 'Isthmus organizing signal to define cerebellar differentiation, 21COE International Mini-symposium, Molecular Mechanisms of Neural Development, March 12, 2004
47. Harukazu Nakamura, 'Isthmus organizer: from transplantation to gene manipulation in chick embryos' New Insights on Developmental Neurobiology, Symposium in honour of Rasa Magda Alvarado-Marllart, 14-17 April, 2004 Cadiz, Spain
48. Harukazu Nakamura "Gain and Loss of Function by in-ovo electroporation" The Chicken Genome, New Tools and Concepts, 30 Apr-2 May, 2004, Kansas City, MO, USA
49. Harukazu Nakamura 'Isthmus organizer for the tectum and the cerebellar differentiation'. Kobe Meeting on Vertebrate Brain Development, 20-23, July, 2004 Kobe
50. Harukazu Nakamura 'Isthmic organizer for tectal and cerebellar development', Symposium Pattern formation in the central nervous system (Organize: Nakamura, H. and O'Leary, D.D.M), 16th International Congress of International Federation of Associations of Anatomists, 22-27, Aug. 2004, Kyoto
51. Tatsuya Katahira, Harukazu Nakamura, 'siRNA in chick embryos in ovo electroporation' Keystone symposia, siRNAs and miRNAs, April, 2004, Keystone
52. Nakamura H. 'Isthmic organizing signal'. "Symposium on Vertebrate Brain Pattern Formation (MEXT) and 32nd IDAC Symposium and Symposium of Brain Pattern Formation" 29 Oct. 2004, Sendai.
53. Nakamura H. 'A new strategy of gene silencing by siRNA which is encoded in the expression plasmid as shRNA'. "2nd Annual Congress of International Drug Discovery and Technology" 1-4 Nov. 2004, Beijing, China.
54. Harukazu Nakamura 'Regionalization and laminar formation of the optic tectum in relation to retinotectal projection map'. Symposium 'Formation, Development and Function of Neural Circuit' Organizer M. Kano & T. Manabe, The 28th Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society, 26-28 July, 2005, Yokohama
55. Nakamura, H., Sato, T., Suzuki, A. 'Isthmus organizing signal for the tectum and cerebellar development'. 2nd International Symposium and annual meeting of Dynamics of Developmental System, Nov. 3-6, 2005, Kisarazu, Chiba
56. 仲村春和「脳を組み立てる」生命科学研究科シンポジウム「脳と社会」ー東北大学脳研究者プラットフォーム 2006 年11 月13 日、仙台市
57. Suzuki A., Sato T. & Nakamura, H. 'Regulation of the Fgf8-Ras-ERK signaling pathway for cerebellar development'. ZAO Conference, The 1st International Conference of Tohoku Neuroscience GCOE, "from GENES to DEVELOPMENT and BEHAVIOR", Miyagi Zao Royal Hotel, 23-24 Jan 2008.
58. 仲村春和「脳の設計図とその書き換えによる自在な脳の作り替え」第2回 東北大学バイオフィオーラム ～ 脳科学の革新的な発展を目指して～ 2009年6月5日、東京ステーションコンファランス
59. Harukazu Nakamura 'Organizing signal for development of the tectum and cerebellum'. UCL-Tohoku University Symposium, From Cell/Developmental Biology to Neuroscience. organizers: Harukazu Nakamura & Shin-ichi Ohnuma, 15 March 2010, London
60. 仲村春和 「脊椎動物脳の領域化のメカニズム」 埼玉大学研究機構・脳科学融合研究センターシンポジウム「脳の発生・発達とその破綻の理解をめざして」 2012年10月6日、埼玉大学
61. Xubin Hou, Minoru Omi, Hidekiyo Harada, Shunsuke Ishii, Yoshiko Takahashi and Harukazu Nakamura 'Conditional knockdown of target gene expression: Tet-on of transcription of double strand RNA'. 7th International Chick Meeting, Session 'Gene Delivery and Transgenesis' Nov 14-18, 2012, Nagoya

一般発表（国際発表）

1. M. Yasuda, and H. Nakamura 'Pathogenesis of limb malformations in human and mouse embryos: Abnormalities of the apical ectodermal ridge' 5th International Conference on Birth Defects. 21-22 August, 1977, Montreal,

Quebec, Canada

2. M. Yasuda, H. Nakamura, and S. Imagawa 'Pathogenesis of limb malformations in mice. An electron microscopic study'. 11th International Conference of Anatomists. 17-23 July, 1980, Mexico City, Mexico
3. M. Yasuda, H. Nakamura, F. Shibasaki, Y. Hiraoka, and H. Okuda 'Comparisons of teratogenicity of cadmium and zinc between the medaka and the mouse'. 3rd International Conference of Environmental Mutagens. 21-24 September, 1981, Tokyo
4. M. Yasuda, and H. Nakamura 'Apical ectodermal ridge and mesenchymal cell process meshwork in limb teratogenesis in mice'. 2nd Annual Meetings of the Teratology Society. 6-10 June, 1982 French Lick, Indiana, USA
5. M. Yasuda, and H. Nakamura 'Pathogenesis of limb malformations in mice: Electron microscopic studies'. 3rd International Conference on limb Development and Regeneration. 27 June - 2 July 1982
6. Kensuke E. Nakano, Harukazu Nakamura, and Mineo Yasuda 'Origin of the striated muscle cells in the avian iris'. 3rd International Congress on Cell Biology. 26-31 August, 1984, Tokyo
7. Hideyuki Ono, Hiromu Mishima, and Harukazu Nakamura 'The Chick ciliary epithelia in culture'. 3rd International Congress on Cell Biology. 26-31 August, 1984, Tokyo
8. Harukazu Nakamura, Shin Takagi, and Hajime Fujisawa 'Prosencephalon can differentiate as a visual center: analysis in quail-chick-chimeras'. 7th International Congress of Eye Research. 25 Sept.- 1 Oct., 1986, Nagoya
9. N. Itasaki, H. Nakamura and M. Yasuda 'Changes in the arrangement of actin filaments during heart looping in the chick embryo'. 4th International Congress of Cell Biology. 14-19 August, 1988, Montreal, Canada.
10. H. Nakamura and D. D. M. O'Leary 'Development of topographic precision in chick retinotectal projection involves major remodeling'. 18th Annual Meeting of Society for Neuroscience. 13-18 Nov. 1988, Toronto, Canada.
11. H. Nakamura, and H. Ichijo 'Plasticity of the rostrocaudal axis of the optic tectum: analysis in quail-chick chimera'. Second Japan-Korea Anatomical Joint Meeting, Tokyo Seminar 1990, Tokyo, 1990 年 4 月 4 日
12. Hiroyuki Ichijo, Toru Matsuno and Harukazu Nakamura 'Rostrocaudal polarity of avian optic tectum and ordered nerve connection'. 20th Annual Meeting of Society for Neuroscience, 28 Oct. - 2 Nov. 1990, St. Louis, USA
13. N. Itasaki and H. Nakamura 'Rostrocaudal polarity of tectum in birds: Correlation of en gradient and retinotectal projection map'. First IUBMB Conference Biochemistry of Diseases, June 1-6, 1992, Nagoya
14. J. Funahashi, N. Itasaki, and H. Nakamura 'cDNA subtraction between rostral and caudal portion of chick embryonic mesencephalon'. 8th International Conference of the International Society of Differentiation (ISD) (Developmental Biology, Differentiation and Cancer: Toward the 21st Century) Oct. 22-26, 1994, Hiroshima.
15. H. Sumida, H. Nakamura, T. Matsuo and M. Yasuda 'Wheat germ agglutinin (WGA) inhibits migration of cardiac mesenchymal (CM) cell in chick embryos in vitro'. 8th International Conference of the International Society of Differentiation (ISD) (Developmental Biology, Differentiation and Cancer: Toward the 21st Century) Oct. 22-26, 1994, Hiroshima.
16. J. Funahashi, N. Iijima, B. Capito and H. Nakamura, cDNA subtraction and analysis of the genes expressed in mes-metencephalic boundary of chick embryos. Fourth IBRO World Congress of Neuroscience. 9-14 July, 1995.
17. J. Funahashi, H. Nakamura 'cDNA subtraction and analysis of the genes expressed in mes-metencephalic boundary of chick embryo'. 25th Annual Meeting of Society for Neuroscience, 11-16, Nov. 1995, San Diego
18. Sugiyama, S., Funahashi, J., Kitaewski, J., and Nakamura, H. 'Crossregulation between En-2 and Wnt-1 in the chick tectal development'. 27th Annual Meeting of Society for Neuroscience, Oct. 25-30, 1997, New Orleans, USA
19. Funahashi, J. and Nakamura, H. 'Pax-5 regulates isthmus organizer's activity through an interaction with FGF8'. 27th Annual Meeting of Society for Neuroscience, Oct. 25-30, 1997, New Orleans, USA
20. Araki, I. & Nakamura, H. 'Engrailed defines the domain of midbrain in developing brain'. 28th Annual Meeting of

Society for Neuroscience. 7-12 1998, Los Angeles.

21. Okafuji, T., Funahashi, J. & Nakamura, H. 'The role of Pax-2 in development of the chick optic tectum'. 28th Annual Meeting of Society for Neuroscience. 7-12 1998, Los Angeles.
22. T. Katahira, T. Sato, S. Sugiyama, T. Okafuji, I. Araki, J. Funahashi and H. Nakamura 'Role of Otx2 and Gbx2 for development of chick optic tectum'. 29th Annual Meeting of Society for Neuroscience. 23-28 Oct. 1999.
23. Watanabe, Y., Ishikawa, S., Katahira, T., Sato, T. and Nakamura, H. 'Mid-hindbrain boundary affects axon guidance of cranial motor neurons (III, IV)' ISDN2000 (International Society for Developmental Neuroscience), 28 July. - 1 August. 2000. Heidelberg.
24. Matsunaga, E., Araki, I. and nakamura, H. '*Pax6* defines the di-mesencephalic boundary by repressing *En1* and *Pax2* ISDN2000 (International Society for Developmental Neuroscience)', 28 July - 1 August. 2000. Heidelberg.
25. Funahashi, J. and S.L. Pfaff. 'Cloning and Characterization of a G-protein coupled receptor which is expressed in the developing chick ventral spinal cord neurons and floor plate'. 30th Annual Meeting of Society for Neuroscience. 4-9 November. 2000. New Orleans.
26. Sugiyama, S., Funahashi, J. and nakamura, H. : Antagonistic role of chick *Grg4* to tectal organizer. : 30th Annual Meeting of Society for Neuroscience. 4-9 November. 2000. New Orleans.
27. Sato, T., Araki, I., Funahashi, J., Matsui, K.A. and Nakamura, H. : Role of *Fgf8* for development of the mesencephalon and metencephalon. 30th Annual Meeting of Society for Neuroscience. 4-9 November. 2000. New Orleans.
28. Katahira, T., Kimura, J., Nakamura, H.: Expression pattern of actin-binding protein coactosin during chick embryogenesis. 14th International Congress of Developmental Biology, 8-12, July, 2001.
29. Maatsunaga, E., Araki, I., Nakamura, H.: Role of Pax3/7 in the tectum regionalization. 14th International Congress of Developmental Biology, 8-12, July, 2001.
30. Kimura, J., Araki, I., Nakamura, H.: Isolation and analysis of genes down regulated by Engrailed in the chicken embryonic mesencephalon. 14th International Congress of Developmental Biology, 8-12, July, 2001.
31. Sugiyama, S., Nakamura, H.: Analysis of cytoarchitectonic development in chick optic tectum. 14th International Congress of Developmental Biology, 8-12, July, 2001.
32. Sato, T., Araki, I., Nakamura, H.: Role of *Fgf8* for development of the mesencephalon and metencephalon. 14th International Congress of Developmental Biology, 8-12, July, 2001.
33. Funahashi, J., Pfaff, S. L., Nakamura, H.: Functional analysis of a G-protein coupled receptor expressed in the developing chick ventral spinal cord neurons and floor plate. 14th International Congress of Developmental Biology, 8-12, July, 2001.
34. Watanabe, Y., Ishikawa, S., Nakamura, H.: Screeing of novel genes for controlling cell proliferation in chick midbrain. 14th International Congress of Developmental Biology, 8-12, July, 2001.
35. Sato T, Funahashi J, Nakamura H : Role of Ras-ERK pathway for development of tectum and cerebellum. 32nd Annual Meeting of Society for Neuroscience, Orlando, 2-7. November. 2002.
36. Watanabe Y, Nakamura H : Axon guidance of chick trochlear nerve by Sema3F along midbrain-hindbrain boundary. 32nd Annual Meeting of Society for Neuroscience. Orlando, 2-7 November. 2002.
37. Nakamura, H., Suzuki, A., Sato, T.: Regulation of the FGF8-RAS-ERK signaling pathway by sprouty2 and cerebellar development. 6th IBRO World Congress of Neuroscience, July 10-15, Prague, Czech Republic
38. Sato, T., Nakamura, H.: The FGF8 signal causes cerebellar differentiation by activating the RAS-ERK pathway. 6th IBRO World Congress of Neuroscience, July 10-15, 2003, Prague, Czech Republic
39. Nakamura, H., Suzuki, A., Sato, T: Design of vertebrate brain: Molecular mechanisms of brain pattern formation. New Horizons in Molecular Sciences and Systems: An Integrated Approach. Oct. 16-18, 2003, Okinawa,

40. Katahira, T., Kimura, J. Watanabe, Y. and Nakamura, H.: Hes5 expression and rostrocaudal polarity formation of the tectum. 35nd Annual Meeting of Society for Neuroscience. 12-16 November.(15 November) 2005. Washington,DC.
41. Nakamura, H. 'Regulation of Ras-ERK signaling pathway for cerebellar development'. Gordon Conference: Fibroblast Growth Factors in Development & Disease. Organizers: Olwin B. B., Ornitz, D. M. 12-17 March, 2006 Ventura, CA, USA
42. Harada, H., Sato, T., Hirate, Y., Okamoto, H. and Nakamura, H. 'Expression of Canopy2 in the optic tectum and its involvement in cell proliferation'. 20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 11th FAOBMB Congress 18-23 June (20 June) 2006. Kyoto.
43. Suzuki-Hirano, A., Sato, T. and Nakamura, H. 'Analysis of Ras-ERK signaling pathway for the cerebellar development'. 20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 11th FAOBMB Congress 18-23 June (23 June) 2006. Kyoto.
44. Suzuki-Hirano, A, Sato,T. and Nakamura, H. 'Regulation of Fgf8 signaling for the cerebellar development: Special attention paid to ERK activity level'. Neuroscience2006. 14-18 October.(15 October) 2006. Atlanta.
45. Harada, H, Sato,T. and Nakamura, H. 'Pea3/Ets transcription factors as downstream factors of Fgf8-Ras-Erk signaling around the isthmus organizer'. Neuroscience2006. 14-18 October.(15 October) 2006. Atlanta.
46. Harada, H., Matsuda, Y., Tanaka, J., Suzuki-Hirano, A., Nakamura, H. 'Establishment of anteroposterior axis of the chick optic tectum by Fgf-Ras-ERK signaling'. International Chick Meeting, 11-14 April, 2007, Barcelona, Spain.
47. Hou, X., Katahira, T., Kimura, J. , Nakamura, H. 'Analysis of coactosin, an actin binding protein, in neural crest cell migration'. International Chick Meeting, 11-14 April, 2007, Barcelona, Spain.
48. Suzuki-Hirano, A., Sato, T., Nakamura, H. 'Sequential regulations of ERK signaling activity and cerebellar development'. International Chick Meeting, 11-14 April, 2007, Barcelona, Spain.
49. Harada, H. Tanaka, J. Matsuda, Y. Suzuki-Hirano, A. Nakamura, H.'Fgf signaling and En2 for tectal polarity formation'. ZAO Conference, The 1st International Conference of Tohoku Neuroscience GCOE, "from GENES toDEVELOPMENT and BEHAVIOR", Miyagi Zao Royal Hotel, 23-24 Jan 2008.
50. Hou X. Katahira T. Kimura J. Nakamura H. 'Analysis of coactosin, an actin binding protein, in neural crest cell migration'. ZAO Conference, The 1st International Conference of Tohoku Neuroscience GCOE, "from GENES toDEVELOPMENT and BEHAVIOR", Miyagi Zao Royal Hotel, 23-24 Jan 2008.
51. Ito, K. Toyoda, R. Nakamura, H. Watanabe, Y. 'Protogenin (PRTG) is involved in gastrulation cell movement'.ZAO Conference, The 1st International Conference of Tohoku Neuroscience GCOE, "from GENES toDEVELOPMENT and BEHAVIOR", Miyagi Zao Royal Hotel, 23-24 Jan 2008.
52. Tanaka, J., Harada, H., Nakamura, H. ' Analysis of EphrinA2/A5 expression in the optic tectum'. ZAO Conference, The 1st International Conference of Tohoku Neuroscience GCOE, "from GENES toDEVELOPMENT and BEHAVIOR", Miyagi Zao Royal Hotel, 23-24 Jan 2008.
53. Harada, H., Nakamura, H. 'Fgf signaling in tectal polarity formation'. Gordon Conference 'Fibroblast Growth Factors in Development & Disease' 2-7 March, 2008, Il Ciocco, Italy
54. Suzuki-Hirano, A., Sato, T., Nakamura, H. 'Regulation of ERK phosphorylation for the MHB formation and cerebellar development'. Gordon Conference 'Fibroblast Growth Factors in Development & Disease' 2-7 March, 2008, Il Ciocco, Italy
55. Minoru Omi, Hidekiyo Harada, Harukazu Nakamura 'Transient innervation of retinal axons to the deeper laminae prior to establishment of the lamina-specific projection in chick optic tectum'. 16th International Society of Developmental Biologists Congress, Edinburgh. 6-10 September 2009 in Scotland, UK (Poster)

56. Hidekiyo Harada, Tatsuya Sato, Harukazu Nakamura 'Coordination of midbrain A-P and D-V axis formation by mutual-repression of FGF and SHH signaling'. 16th International Society of Developmental Biologists Congress, Edinburgh. 6-10 September 2009 in Scotland, UK (Poster)
57. Omi, M., Harada, H., Nakamura H. 'Novel retinotectal projection pathway in deeper laminae of the developing chick optic tectum', The 1st Tohoku International Symposium on Multidisciplinary Neuroscience 21-23 Jan. 2011. Sendai Japan
58. Suzuki, A., Harada, H., Nakamura H. 'FGF8 localizes in the nucleus –The possibility of new function-', The 1st Tohoku International Symposium on Multidisciplinary Neuroscience 21-23 Jan. 2011. Sendai Japan
59. Ayumu Suzuki, Hidekiyo Harada, Harukazu Nakamura 'Possibility of FGF8 as a nuclear factor' The 3rd UCL-Tohoku University Joint Symposium, From Cell/Developmental Biology to Human Diseases. 19 Oct 2011, London
60. Yuji Watanabe and Harukazu Nakamura 'Directed tangential migration coordinates layer formation in the developing optic tectum' 7th International Chick Meeting, 14-18 Nov 2012, Nagoya.
61. Hitoshi Gotoh, Katsuhiko Ono, Tadashi Nomura, Hirohide Takebayashi, Hidekiyo Harada, Harukazu Nakamura, and Kazuhiro Ikenaka 'Generation of somatic motoneurons from Nkx2.2-expressing progenitor cells in chick embryonic spinal cord' 7th International Chick Meeting, 14-18 Nov 2012, Nagoya.
62. Jun-ichi Funahashi and Harukazu Nakamura 'Time-lapse imaging system with shell-less culture chamber' 7th International Chick Meeting, 14-18 Nov 2012, Nagoya.